

ナルナル的 菌活書評

【不思議な菌類を知る絵本】

皆様お待ちかね、待望の絵本が出版されました。こういった絵本が欲しかったのですね。この絵本は小学生の高学年から読めるように漢字も工夫されています。どなたでも読める菌類の入門書です。

	低い	⇄	高い	
難易度	★ ☆ ☆ ☆ ☆			
活菌度	★ ★ ★ ★ ★			
面白さ	★ ★ ★ ★ ★			
新規性	★ ★ ★ ★ ★			

幼稚園児でも読むことができますので、お母さんやおじいちゃんでも、お孫さんと一緒に絵本を読んであげて、公園や森の中に菌類を探しに行かれたらどうでしょうか。

菌類の菌糸の束は、地面を数ミリひっかいただけで見つかりますし、枯れ木の表明にも沢山も白い糸が蜘蛛の巣のように張っているのを見たことがあると思います。おうちに持って帰ってタッパーの中で飼育して見ましょう。枯れ木が餌で、水分のあげ方で成長具合が変わるようです。

この絵本の中では、世界最大の生物についても紹介されています。世界で最大の動物はシロナガスクジラで、体長30メートル、重さ200トンですが、アメリカのオレゴン州で発見された生物の大きさは、9.5キロ平方メートル、推定重量は400トンとされています。その正体は、オニナラタケというキノコで山一帯の地面の中に菌糸を張り巡らせている事がDNA鑑定で明らかになりました。

著者のリン・ボディ(Lynne Boddy)はウェールズのカーディフ大学教授で、木材を分解するカビの研究者です。カビや菌類の研究をするうちに、菌類が人間にとって毒となる有害物質を分解できる事を発見します。

2008年、ボディは英ガーディアン紙で、菌類は人



類にとって最も貴重な種であると主張しました。彼女は、菌類がなければ人間を含む陸上の生態系は存在しないと言います。

この絵本は、かなり専門的な話も解り易

く解説されていて、しかもフルカラーのイラストや写真で溢れています。菌類の世界では、水生菌、酵母、カビ、子のう菌(キノコ)などがいます。およそ、蜘蛛の巣の様な菌糸を地面の中などに張り巡らせている生き物を菌類と定義しているようです。

菌類は、動物たちとも仲良しな面があって、そんな、動物たちとの交流も描かれています。菌類の世界の全体の謎を解くように色々な説明がされていますから、この本を一冊読むだけで、”にわか菌類博士”になれそうです。

書名	奇妙で不思議な菌類の世界
著者	ウェンジア・タン(イラスト) / リン・ボディ(著者) / 白水貴(監訳) / 斉藤 隆央(翻訳)
出版社	創元社、フルカラー64P
発行日	2023/06/02
価格	2,420円(税込)

およそ、生物がいる場所にはどこにでもいる事が紹介されています。楽しいキノコ達の絵を楽しみましょう。